

平成 29 年度 国立中央青少年交流の家教育事業

教員免許状更新講習

【必修】教育の最新事業【選択必修】学校における危機管理上の課題と対応

平成 29 年 12 月 9 日（土）～12 月 10 日（日）

○目的

小中高等学校，特別支援学校及び幼稚園の教員を対象に，免許状更新にかかる必修領域及び選択必修領域の講習会を，静岡大学及び御殿場市教育委員会と連携し実施することにより，喫緊の教育課題についての理解を図る。

○参加者

幼・小・中・高・特別支援学校教諭・その他

2 日間のべ 31 名（必修 17 名，選択必修 14 名受講）

○事業の内容

【必修①】「子ども観，教育観等についての省察」，「教育的愛情，倫理観，遵法精神その他教員に対する社会的要請の強い事柄」，「居場所づくりを意識した集団形成」（講義・実習）及び試験

講師：静岡大学教職センター特任教授 鈴木 克壽 氏

教育実践の見直しをするということに重点を置いた講義であり，教育者として改めて大切にすべきことを学ぶ機会となった。学校現場経験の豊富な講師の先生ならではの提言やアドバイスの詰まった講義であり，声のかけ方によって子どもの変化が変わってくるということを再認識させられる時間となった。



【必修②】「子どもの発達に関する，脳科学，心理学等の最新知見に基づく内容」，「特別支援教育に関する新たな課題（LD，ADHD 等）」，「カウンセリングマインドの必要性」（講義・実習）及び試験

講師：静岡大学非常勤講師 加藤 陽子 氏

インクルーシブ教育の推し進められている現在の教育現場において，教員が脳科学や心理学に関する知見を広めることは必須である。各生徒に応じた対応について，ペアワークや具体的事例等を通して大変分かりやすく学ぶことのできた講義であり，今後の現場で即実践できる指導法やカウンセリングマインドを身につけることができた有意義な時間となった。

【必修③】「国の教育政策」，「世界の教育の動向」（講義）及び試験

講師：静岡大学 非常勤講師 山本 隆太 氏

日頃意識することの少ない世界の教育（特にヨーロッパ）についての流れや情報について学ぶことにより，日本の教育に不足している部分や見直す必要のある部分について考えることのできた講義であった。教員の資質向上のための研修の重要性を再認識することができた。



【選択必修領域】「様々な問題に対する組織的対応の必要性」, 「学校における危機管理上の課題」及び試験（講義・実習）

講師：静岡大学学術員融合・グローバル領域准教授 松尾 由希子 氏



前半の講義・実習においては「学校危機管理に関する概論」についての講義の後、主に「多様な子どもへの対応」ということで「性的マイノリティと学校教育」について焦点を当てた講義・実習を行った。性的マイノリティは決して

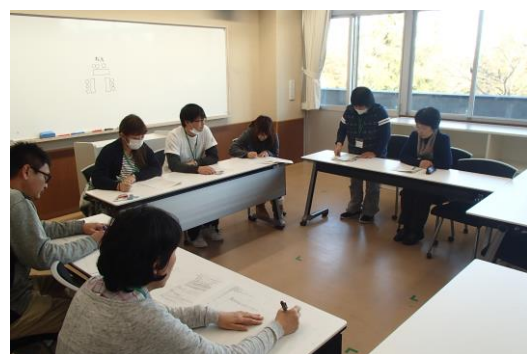


特別なケースや不自然なことではなく、潜在している数を含めると1割弱の割合に達するため、学校現場においても一定数の児童・生徒さらには教員に至るまで存在していると考えられる。



教員の心無い言動が大きな問題へと発展する可能性を含んでいることから、教員側の正しい知識・理解・肌理細やかな対応が必要とされる。

講義では、セクシュアリティに関する問題の具体例や、ワークシートを用いたシミュレーションによる活動を通して、多様性のあるセクシュアリティへの理解を深めることができた。



後半の講義・実習では「学校事故の判例にみる学校の安全・危機管理-模擬裁判-」, 「近年注目された学校事故-熱中症を事例に-」というテーマで危機管理に対する知識や理解, リスクマネジメントについての考えを深めることができた。受講生は模擬裁判（ロールプレイ）を通して、リスクマネジメント, リスクコントロールについての学びを深めることができていた。

《受講生の感想から》

- 学校現場に必要なものばかりを詳しく説明していただき、分かりやすかったです。
- 子ども達にも、また受講者に対しても愛情あふれる御講義で明日からのエールをいただいたようでした。
- 快適な環境の中で講習を受けさせていただきありがとうございました。スタッフの方が教員経験者という安心感となごやかな雰囲気を作って頂けた。

《成果と課題》

- 講師の先生方の講義が一方通行ではなく、ペアワークやグループワークを含んだ内容であったため、受講生の講義に対する満足度が大変高かった。
- 事前アンケートの内容を講師の先生方が講義に反映してくださったため、受講生のニーズに合った講義となった。
- 教員免許状更新講習の開催決定が年度途中であったため、広報が遅れたこともあり、受講者の人数が予定より少なかった。